

## 「選挙から学ぶ自己主張の大切さ」

まず初めに、みなさんに聞きたいことがあります。今までに国政選挙の投票に行ったことがあるという方は挙手をお願いします。次に行ったことがないという方、挙手をお願いします。ここで私が知りたかったことは、若い人がどれほど投票に行っているのかということではありません。私は手を挙げていない人を探していました。私のこの「投票に行ったことがあるか」という質問に答えることも一種の投票です。若者に、投票に行かない理由を尋ねた記事をいくつか閲覧すると、住民票を移しておらず、投票するのに手間がかかるという理由を除くと、「投票所へ行くのが面倒くさいから」「自分の一票ではどうにもならないから」「投票方法が分からないか

ら」というのが上位に来ています。私の質問に答えなかった方もおそらくこれらが理由でしょう。知らない人の投票になど参加したくないという気持ちも分かりますし、投票するメリットがありません。しかし、これが投票しない理由なのでしょうか。

私の大学では、年に数回学生大会というものが開かれ、議決の可否を問う投票が行われます。投票者が全学生の三分の一に満たない場合、否決となり部活動やサークルなどの活動が一時停止されてしまうシステムなのですが、前回行われた際の投票率は、なんと三十五パーセントだったのです。この結果に私は衝撃を受けました。投票期間は一週間ほどあり、インターネット投票かつ議決に対して可決か否決かを選ぶだけの一分もあれば終わる投票でした。にも関わらず、三十五パーセントという低い投票率でした。とても簡単

であり、投票方法も明確だとしてもこの結果なのです。私はこの時分かったのです。「自分が行動しなくても誰かが行動をしてくれて何とかなるだろう」という気持ちを持って、いることが原因だということ。

私は先日、鳴門市議会選挙の投票に行ってきた。ここまで色々と話してきましたが、恥ずかしい話これが人生初の投票でした。私も正直、投票に行きたい気持ちはありましたが、「私の一票で何が変わるのか」と思っている立場でした。しかし、投票に行き結果を見た時、この気持ちは変わりました。投票券一枚で投票できる簡単さ、市議会選挙ということもあり数十票で当落が決まってしまうという中での一票の重みを感じることできました。実際、今回の当落の差は、わずか十三票でした。ここにいる人が少しでも友人を連れて投票に行くことで結果が変わるこ



とが多分にあるのです。

私は将来徳島で教員として働きたいと思っ  
ています。学校教育の中で選挙に触れるこ  
とはタブーのように感じられていますが、こ  
れは教師が児童生徒に対して、特定の政党を  
支持するよう教育を行うことが禁じられて  
いるのであり、投票へ行くことを促すことは  
何ら問題ありません。教員として教えたいこ  
とは、「自分が行動しなくても誰かが行動を  
してくれて何とかなるだろう」という気持ち  
を捨てるべきだということです。 檜坂46さ  
んの「サイレントマジョリティー」という曲  
に、「誰かの後ついて行けば傷つかないけど  
その群れが総意だとひとまとめにされる」と  
いう歌詞があります。他人任せでも生きては  
いけますが、何もしないと言われるがままに  
なってしまう、自分の思うようにはいきませ  
ん。今、教育では主体的・対話的で深い学び

が求められています。徳島という客観的に見ると小さな県からもしっかりと自分の意思を主張できる児童生徒の育成に励みたいと考えています。

最後になりますが、二十年間私の成長を支えてくださった全ての方々には感謝するとともに、徳島で教員になるという夢を実現できるよう日々精進していきます。